

講義⑤

「地域アーカイブ活動による 公共空間の可能性」

講師：株式会社 HUMI コンサルティング
代表取締役 中村 佳史

今回の講義では地域情報資源をどう活用していくのか、ライブラリアンとしてどう関わっていくのか事例を通して考えて頂きたい。

1 地域情報・地域資源とは

「地域資源」という言葉は2007年に公布された「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」から出てきた言葉であり地域ならではの産業資源で副産品や地域に続いている工芸のことを指していた。今回はその他に地域の古地図、古写真、ローカル新聞、オーラルヒストリーといったものを地域資源として考えその活用の仕方を話していきたい。

2 お茶ナビゲート

「お茶ナビゲート」は御茶ノ水から近隣への街歩きに自分なりの視点を持ってもらい、その起点として利用してもらおうというコンセプトで運営されている施設で二つのサービスがある。

一つ目「街歩きステーション」は、御茶ノ水界隈の文化的、自然的な見どころやおすすめ店舗などのスポット、約300件が登録されている。地図やテーマから自分が興味あるスポットを選択し、それらをプロットしたオリジナルの散歩地図を印刷できるサービスである。

二つ目の「歴史ギャラリー」は、集められた地域の古地図と古写真を大画面フラットタッチパネルで見ながら、地域の営みや歴史を辿ることができる。フラットパネルを活かして、アーカイブを囲み、その情報が起点となった話を促し、交流の場としての役割や、新たな地域情報を得ることができる場として機能している。

3 川崎市高津区のふるさとアーカイブ

古写真を中心に収集しデジタル化したものをWEBサイトで公開している。テーマや時代、地域ごとにカテゴリ化された古写真を見ることができる。古写真をイベントやワークショップで利用してもらうことも可能である。町の歩みを後世に伝えていくことや、新しく移住してきた世代に町のことを知ってもらうため、あるいは元からの住民との交流を促す資料として活用してもらうことを目的としている。その先に町の住人としてのアイデンティティの確立や地域に根差す人が増えていくことを目指している。

4 図書館員としての地域情報との関わり方

図書館員として地域情報とどう関わっていくのか、それぞれで考えてもらいたい。例えば地域情報を発掘し収集し整理していく人になるのか、地域情報に関する徹底したレファレンスサービスができる人になるのか、地域情報活用のプレーヤーとなるのか、又は地域情報を活用した活動を行っているグループのサポーターとなるのか。

情報提供する際に、どんな風に見せるのか、あるいはどんなふうに使って欲しいのかにこだわって考えていくことが大事である。

図書館利用者としては図書館員から、知識の豊かさや生活スタイルの豊かさ、知的活動の楽しさといったことを感じたい。ので利用者が求めていること以上の情報や視点を提供できるようになると、素晴らしいと思う。



(講義中の中村講師)